

第16回「市長と語るタウンミーティング」を開催しました

1 日 時 令和7年7月28日（月） 午前10時～

2 場 所 善通寺市役所 4階 秘書広報課（特別応接室）

3 参加者

中央地区連合自治会長	丸岡 様	
東部地区連合自治会長	矢野 様	
西部地区連合自治会長	山野 様	
南部地区連合自治会長	横田 様	
竜川地区連合自治会長	大西 様	
与北地区連合自治会長	杉原 様	
筆岡地区連合自治会長	大西 様	
吉原地区連合自治会長	村井 様	計8名

4 会議の概要

【テーマ】これからの自治会の在り方について

1. 開会
2. 主催者挨拶
3. 参加者紹介
4. これからの自治会の在り方について 概略説明
5. タウンミーティング
6. 閉会

5 いただいたご意見

【テーマ】①	地域の現状と課題
発 言 者	ご 意 見
中央地区 丸岡 様	・中央地区の自治会は、近年、大きな変化や新たな取り組みが少なく、活動がやや停滞している印象がある。他の地区ではさまざまな活動が活発に行われているという声も聞かれる一方で、中央地区では新しいことに挑戦しようとする機運が高まりにくく、現状を維持する形が続いているのが実情である。 ・新たな活動を提案しても、年配の会員が多く、協力が得られにくいいため、実行に移すことが難しい状況である。 ・公民館まつりは、当初は通常のバザーのみであったが、途中からビアガーデンを導入したことで来場者が増加した。現在、ビアガーデンの準備などは「おやじの会」が担当している。 ・公民館まつりでは抽選会も実施しており、近隣住民からも楽しみにされている。自治会の会員以外の来場も見られる。一方で、近年は寄附が集まりにくく、抽選の景品も目玉となるようなものが用意しづらくなっている。 ・最近、地区内で2件の自治会が解散（活動停止）した。
東部地区 矢野 様	・令和7年4月より東部地区連合自治会長に就任し、全体を見ていて気になった点は、自治会が単に会費を集めるだけの組織になっていないかということである。 ・東部地区における自治会加入率は約50%である。加入者は共同募金や社会福祉協議会への負担金などを支払っている一方、未加入者はこれらの負担をしていないため、不公平だという意見がある。 ・自治会費の金額は各単位自治会によって異なる。たとえば、東部地区のある単位自治では年会費5,000円を集め、その中から共同募金や社会福祉協議会への負担金などを支出している。約3年前までは年会費は9,000円であったが、当時は街灯の電気代も自治会が負担していた。現在は市が電気代を負担しているため、会費を5,000円に引き下げた。各種負担金を合算すると、年会費5,000円では赤字となるが、これまでの留保金によって賄っている。 ・地域によって運営方法に差があり、負担金をその都度集めているため自治会費を徴収していないところや、ごみ還付金のみで運営しているところもあるなど、運営形態に大きな違いがある。明確な基準がないまま各自治会が独自に運営を続けてきたが、加入者の減少も進んでおり、市としても自治会費や負担金の在り方について一定の基準を示してもらいたいところである。 ・東部地区にはアパートが多く、アパートの管理会社が敷地内にゴミ集積所を設置していることから、「自治会に加入しなくてもよい」と説明しているケースがある。しかし、自治会の役割はごみ出しだけではなく、防災や地域連携など多岐にわたるものであり、アパート入居者にも本来の自治会の目的を理解してもらう必要がある。アパート入居者の多くは小さな子どもを持つ家庭であり、支援センターなどを利用する機会も多いと考えられる。そうした施設を通じて、自治会の役割や意義を周知・連携できないか。

発 言 者	ご 意 見
西部地区 山野 様	・西部地区の自治会加入率は約 50%であるが、敷地内に同居している場合、世帯が分かれていても 1 世帯としてカウントしている。そのため、実際の加入率は 10%程度高くなると推測される。 ・連合自治会として、各家庭から年会費 500 円を集めており、公民館まつりや善通寺まつりなどの地域イベントの費用として使用している。西部地区のある単位自治会では、月会費として 1,500 円を徴収している。会費は、花火大会、旅行、忘年会など、住民が一堂に会して交流を深める行事に活用している。 ・毎月 28 日に地域の集会場で会費を集める機会を設け、併せて伝達事項の共有も行っている。これにより、住民同士のコミュニケーションが生まれ、独居高齢者の様子を見守る機会にもなっている。 ・西部地区でも新しいアパートが増加しているが、アパートの住民は自治会に加入しない傾向がある。アパート住民の多くは会社勤めをしており、朝早く家を出て夜遅く帰宅するため、休みに自治会活動や役員の仕事に時間を取られることを敬遠しているようである。
南部地区 横田 様	・南部地区のうち、櫛梨地区には 4 つの小地区があるが、そのうち自治会に加入しているのは 1 地区のみである。 ・南部地区では、「長寿を祝う会」の記念品を自治会長が配布しているが、自治会が解散してしまった地域では、誰が実際に配るのかが明確でなく、大きな負担となっている。記念品については、市役所から直接配布してもらえるような仕組みにしてもらえると助かるとの意見がある。たとえば、以前市がお米券を配布していたが、その時と同様にできないか。 ・会費については、連合自治会として年会費 500 円を各世帯から徴収しているが、用途が見えにくいため「なぜ集めるのか」と非難を受けることもある。 ・南部のある単位自治会では、年会費 3,000 円を徴収している。公民館を通じて行う寄附金もこの会費から支出しているが、現状では余剰が出ており、将来的に年会費を 2,000 円へ引き下げること検討している。

発 言 者	ご 意 見
竜川地区 大西 様	・ 竜川地区では、他の地域と比べて自治会加入率が低く、人口や世帯数が多いにもかかわらず、自治会の機能が十分に発揮されにくい状況が続いている。特に、従来から地域に住んでいる方々と、近年新たに転入された方々との間で、自治会に対する意識や関わり方に違いが見られる。新しく地域に来られた方に、自治会の意義や役割が十分に伝わっていない場合もある。 ・ 団地やアパートでは共用のごみ集積所が利用できることから、自治会に加入する必要性を感じにくいという声もあり、新たな自治会設立の動きには至っていないのが現状である。 ・ 一部の自治会では、新たに加入する世帯（いわゆる新家）に対し、入会金として30万円、多いところでは50万円を求めている事例がある。これは自治会が会場（集会施設）を所有しており、その建設費用として既存会員が過去に寄附をしてきた経緯があるため、新規加入者にも同様の負担を求めているものである。このような高額な入会金が障壁となり、新家が自治会に加入しづらいという問題が発生している。 ・ 竜川地区では「竜川地区地域振興協議会」が設立されており、地区内の各種団体の集合体として機能している。この協議会には会長および事務局を設けており、ごみ還元金のうち、環境推進委員への手数料を差し引いた金額を受け取り、社会福祉協議会の会費を賄っている。令和7年度からは、共同募金、歳末助け合い募金、日本赤十字社への募金についても、この協議会から拠出する予定である。これにより、各单位自治会長の業務負担を軽減することが期待されている。 ・ 長寿者への記念品については、昨年度までは自治会長や民生委員が配布していたが、今年度からは配布方法を変更する予定である。まず「長寿を祝う会」を開催し、対象者に公民館へ記念品を受け取りに来ていただく方式とする。来場者が集中しないよう、町別に時間帯を分けて来館をお願いする。来ていただいた方には、自治会からの予算で饅頭などの特典を提供する予定である。当日来られなかった方については、引き続き自治会長または民生委員が記念品を配布するが、これまでより配布対象が減るため、関係者の負担軽減が見込まれる。

発 言 者	ご 意 見
与北地区 杉原 様	・与北地区の人口は、以前は約 2,000 人であったが、現在は 1,600 人を下回っている。これに伴い、26 あった単位自治会を 20 に集約している。 ・連合自治会費としては、前期に 1,500 円を各世帯から集金しており、内訳は社会福祉協議会費、善通寺まつり協賛金、公民館まつり費がそれぞれ 500 円である。後期の集金額は 1,200 円であり、内訳は護国神社への協賛金が 500 円、赤い羽根募金が 700 円となっている。 ・与北地区内のある単位自治会では、年会費として 12,000 円を徴収しており、その中からお宮の再建費、連合自治会費などの費用に充てている。 ・与北地区は人口が少ないこともあり、公民館まつりなどの地域行事については、自治会、老人会、環境関係団体など、地域内の各団体が協力して実施している。 ・ごみ出し等の日常生活においても、特段の問題は発生していない。 ・地域内では新たな住宅の建設が少なく、住民の多くが子どもの頃からの知り合いであることから、自治会活動などに対する協力が得やすく、地域活動は円滑に行われている。
筆岡地区 大西 様	・筆岡地区の単位自治会は 26 あり、それぞれが独自に活動している。連合自治会としての会費徴収は行っていない。社会福祉協議会や各種募金についても、単位自治会の会長がそれぞれ集金し、納めている状況である。 ・単位自治会の会費は自治会によって大きく異なり、高いところでは約 1 万円、安いところでは約 1,000 円である。会長のなり手がない自治会では、会費の一部から会長手当を支払っている場合もある。 ・筆岡地区のある単位自治会の会費は 1,000 円である。地域会長の活動費も自治会会費に含まれており、ごみの還元金も自治会の資金として活用している。ただし、単位自治会の上位に上部組織が存在し、そちらの会費が 3,000 円徴収されているため、実質的には 1 軒あたり 4,000 円の会費負担となっている。 ・筆岡地区ではコミュニティ協議会費として 1 軒あたり 300 円を納めており、これは善通寺まつりなどのコミュニティ行事の費用に充てられている。 ・まつりなどの行事は、基本的に現役世代に主体的に運営してもらっており、そのことにより地域に対する愛着が育まれると考えている。

発 言 者	ご 意 見
吉原地区 村井 様	・吉原地区は約 1,000 軒の住宅があり、自治会の加入率は約 75%で、市内でもっとも高い加入率である。これは新しい住宅がほとんど増えていないことが影響していると考えられる。吉原地区内でも新築住宅が増えている地域は加入率が低い傾向にある。 ・人口の約 45%が 65 歳以上であり、空き家も増加している状況である。 ・吉原地区では行事が多く開催されており、参加率も高く和気あいあいとした雰囲気である。一方で、行事が多すぎることが現役世代の加入を妨げている一因ではないかとの指摘もある。 ・連合自治会としては年間 12,000 円を集金している。単位自治会としては別途 4,000 円を集金し、その中から赤い羽根募金等を含む全ての費用を賄っているため、追加徴収は行っていない。 ・ごみ還付金も全て会計に計上しており、余剰が出た場合は集金額の調整に充てているため、資金面での問題は発生していない。
【テーマ】② これからの自治会の在り方としてどうすれば良いか	
発 言 者	ご 意 見
西部地区 山野 様	・子どもを対象とした行事を実施すると、多くの人が参加する。子どもが参加すれば親や祖父母も一緒に出るため、子どもが出る行事を増やしたいと考えている。しかし現在、PTA や学校の協力が得られておらず、子どもを集めることが難しい状況である。 ・地域の行事に子どものうちから参加すれば、地元への愛着が生まれ、将来的に次世代の自治会長を担う人材が育つ可能性があると考えている。 ・西部地区では以前、自由参加のハイキングを実施していたが、参加者が減少したため、学校行事として取り入れてもらったところ、父兄も含め約 250 人が参加する規模となった。
筆岡地区 大西 様	・筆岡地区では今年初めて、小学生の卒業記念イベントとしてパーティを開催した。子どもだけでなく親や祖父母も参加し、賑やかな集まりとなった。 ・子どもが集まるイベントは効果的であると考えられるが、近年の学校改革の影響もあり、学校側の協力が得られにくい状況である。
東部地区 矢野 様	・自治会の区割りは昔からの小字（こあざ）に基づいており、新しく入居した住民は自分がどの自治会に属するのか分からない場合がある。どの自治会に属するのか、またその際にどの家に声をかければよいかを周知できれば、子どもも地域のイベントに参加しやすくなると考えられる。 ・子どもがイベントに参加すれば、その親も来やすくなり、次世代の自治会活動へのつながりが期待できる。

発 言 者	ご 意 見
竜川地区 大西 様	・ 竜川地区は子どもの数が多く、小学生を対象にした行事を開催すると約 200 人程度の参加が見込まれる。しかし、多人数が参加する行事を行うための会場確保が課題となっている。 ・ 以前は小学校の施設を借りて公民館まつりを開催していたが、近年は小学校側の許可が得られず、開催が困難となっている。公民館は規模が小さく、駐車場も限られているため、多人数の行事を実施するには適さない状況である。これらの事情から、竜川地区での大規模な子ども向け行事の開催は難しいのが現状である。
東部地区 矢野 様	・ 東部地区では、昨年から地区の運動会が春に開催されるようになり、公民館まつりと同日に開催されることとなった。当初は日程の重複に懸念があったが、実際に行ってみると、運動会に参加した子どもたちがそのまま公民館に移動し、バザーで昼食をとった。また、午後 3 時からの餅投げ（お菓子を投げる）にも着替えて再度参加するなど、子どもたちの参加が活発であった。このように、両行事の同日開催が相乗効果を生み、公民館まつりの来場者増加につながったと考えられる。
南部地区 横田 様	・ 南部地区では、公民館まつりのバザーを担当する人手が不足しているため、最近では消防団の有志に協力を依頼している。消防団の有志だけでなく、その家族も参加してくれるため、公民館まつりは多くの人で賑わっている。
吉原地区 村井 様	・ 吉原地区の公民館まつりでは、昨年からはバザーの負担軽減のためにキッチンカーを 4 台手配している。キッチンカーの導入によりバザーの負担は軽くなったが、それまでバザーの運営に伴って来ていた人たちの参加が減少したためか、公民館まつりの参加者数は例年より少なかった。 ・ 市全体の人口は 3 万人を切ったが、人口の減少により地域の活動や行事の参加者数が少なくなり、今後の運営に不安を感じている。
西部地区 山野 様	・ 西部地区の公民館まつりでは、自治会がうどんやたこ焼きを販売しており、若干の黒字となっている。その黒字は他の行事の運営費に充てられている。また、PTA やおやじの会もさまざまなバザーを開催しており、こちらも黒字となっているため、それぞれの活動経費に充てられている。逆に、PTA やおやじの会からバザーの開催希望が出ることもある。さらに、少年院が栽培した野菜を公民館まつりで販売したいとの要望や、院生の作品展を展示したいとの要請もあった。

発 言 者	ご 意 見
与北地区 杉原 様	・与北小学校の児童数は15人と非常に少ないため、どのような行事を開催しても盛り上がりには欠ける状況である。子どもの数が少ないことから、若い親世代の参加もあまり見られない。
中央地区 丸岡 様	・中央地区では若い人の数が減少し、地域に残っているのは主に年配の方々である。また、若い人は勤め人が多く、行事や会合への参加がほとんどない状態である。
【テーマ】③ コミュニティセンターを作ることの是非	
発 言 者	ご 意 見
西部地区 山野 様	・コミュニティセンターの運営は難しいと感じる。現在、自治会など各種団体がそれぞれ独自に活動しているが、連携が十分に取れていない。こうした状況から、一括した組織にまとめることはハードルが高いと考えられる。 ・人口や子どもの減少を踏まえ、組織をまとめることが望ましいが、実現するのは難しいのではないかと。
東部地区 矢野 様	・市内の自治会や区ごとに活動内容が異なっており、コミュニティセンターを設置して一気にまとめることは困難である。コミュニティセンターの設置を市が主導しなければ、実現は難しいと考えられる。 ・市が直接動けない場合でも、何らかの組織を設立し、連合自治会長が支部長のような役割を担う体制を整えるべきである。各校区でコミュニティセンターを設置することは、現状ではほぼ不可能である。 ・子どもが現在の校区を離れ、子どもの多い地域に通うようになれば、自治会の活動は逆に活発化する可能性がある。友人やコミュニティの輪が広がることで、地域のつながりも強まると考えられる。学校の再編に合わせて、新しい校区におけるコミュニティセンターの設置なども検討すべきである。
与北地区 杉原 様	・与北地区の場合であるが、現在は学校を中心に各種団体が活動している。そのため、学校がなくなれば、現在活動している各種団体も解散する可能性が高いと考えられる。
竜川地区 大西 様	・現在の竜川地区地域振興協議会は、主に資金管理に関する決定を行っている。そのため、特に負担の大きい組織ではない。ゴミの還元金が多い場合は募金などの支出を増やし、少ない場合は支出を抑えることを決めている。実際の活動は各団体が行っているため、地域振興協議会による負担はほとんどない。